

# ワールド風

(現場)からの風

宮田守男

昭和20年8月15日、日本が無条件降伏したことで第二次世界大戦が終結し、今日は「終戦の日」。多くのメディアが戦争や平和に関する内容を報じるの

で、同じ歴史を二度と繰り返さないように平和を願う想いを抱きたいものだ。また戦争を体験しなかった年代は当時の歴史を学ぶ事も大事だ。

広島市平和記念公園での80回目の平和記念式典で、同市の小学校に通う佐々木駿さんと

関口千恵璃さんのスピーチ「世界では、今もどこかで戦争が起きています。大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。その事実を自分のこととして考え、平和について関心

## 外国人の受け入れに平和の視点が求められる

な議論を呼んだ。鈴木法相の私的勉強会が作成した総務省の令和6年1月時点の公表データから15年後に外国人の割合が10%を超える市町村を抽出、全国14市区町村の中に白馬村が13.5%になると予

を持つこと。多様性を認め、相手のことを理解しようとすること、一人一人が相手の考えに寄り添い、「のメッセージに感動した人は多いはずだ。参議院選挙では、外国人を巡る政策が大き

だが総務省が発表した今年1月1日現在の白馬村の外国人人口割合は全国の町村で3番目に多い前年より503人増えて、18.3%。すでに予測を大きく上回り「多民族自治体」状態だ。少子高齢化・人口減少の中で主産業である観光産業

測られている。国立社会保障・人口問題研究所が令和5年の将来推計では、2070年頃に外国人人口割合が10.8%になるとされていたが、それより約30年前倒しになる可能性が示された内容だ。

多くのお客様で賑わいのある大北地域が参考すべき事例がある。2月〜3月に札幌市が実施した、指定ゴミ袋をレジ袋の代わりに「ばら売り」する実証実験だ。現在指定ゴミ袋は10枚単位で購入するが、短期滞在者にはごみ処理の対応に適していないことも事実だ。スーパーで購入した商品をゴミ袋に入れることへの抵抗感を減らす為のデザインの工

への外国人人材の確保は今後も避けられない地域課題だ。更なる取り組みでお互いが歩み寄れる地域づくりを考えるべきだ。

夫やごみ袋自体を減量する取組は参考になる。ごみ処理は地元負担の考えを再考でき

大町市内で開催された大会でも令和10年長野県開催の国民スポーツ大会を意識した競技役員の研究が行われている



る取組に関心を持ちたいものだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)